

令和6年度 墨田区立寺島中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 田中 茂和

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「深く考え自ら学ぶ生徒」 ・「心豊かで思いやりのある生徒」 ・「健やかでたくましい生徒」
目指す学校像	地域から信頼される学校。 生徒が期待感を胸一杯に膨らませながら登校し、一日の学校生活が終わった後、生徒が、満足感をたくさん得て下校することができる学校。
目指す生徒像	明るく、元気に、たくましい 『知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒』 ♥『ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生』
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する熱意と使命感を強くもつ教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばす教師 ・組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師 ・生徒の模範となる教師 ・自己研鑽、相互研鑽をする教師 ・服務事故を絶対に起こさない教師 ・健康な体を維持できるようにする教師 ・チームワークが良い教師集団（TEAM教職員）

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

『明るく、元気に、たくましく、ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生』の育成。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力の定着とさらなる向上	①ロイロノートの活用を含めたICT機器と印刷物等を有効活用する。	4 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 80%以上	4	講師も含めた全教員がロイロノートを活用した授業展開はできた。また印刷されたワークシートも有効活用されていた。	ICT機器と紙の良い点を改めて考え、それらのよさを活かしながら、授業を展開していく。	A	A	より一層iPad等ICT機器を授業で有効活用して欲しい。また、不登校生徒等に対するオンライン授業ができるよう、整備を進めて欲しい。
			3 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 70%以上						
			2 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 60%以上						
			1 「教師の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 ICT機器と印刷物を活用した授業の実施率 60%未満						
		②数学・英語の少人数指導や各教科でより効果的なグループ学習を取り入れた授業を展開する。	4 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 少人数指導とグループ学習授業の実施率 80%以上	4	数学・英語の少人数指導は計画通り実施できた。ジグソー法を取り入れた教科もあり、各教科のグループ学習も意図的に実施できた。	少人数指導やグループ学習といった形を作るだけでなく、その学習方法による効果を上げるための授業展開をしている。	A	A	・生徒の興味・関心を高め、楽しく分かりやすい授業を実施し、意欲的に学習に望む生徒を育成し学力の更なる向上に努めて欲しい。 ・学力向上委員会や教科部会において、生徒の現状を分析し、学力向上に向けた取組をして欲しい。
			3 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 少人数指導とグループ学習授業の実施率 70%以上						
			2 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 少人数指導とグループ学習授業の実施率 60%以上						
			1 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 少人数指導とグループ学習授業の実施率 60%未満						
		③iPadを活用した家庭学習を習慣化させる。	4 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 iPadを活用した家庭学習の実施率 80%以上	3	進路学習指導部が中心となり、各学年でiPadを活用したりした家庭学習に取り組むよう推進した。	ICT機器を活用した家庭学習では、担任等による実施状況の確認が難しい。自主的な取り組みとさせる方策を考えていく。	B	A	学力向上には家庭の協力も必要である。課題をより具体的に提示し、生徒が意欲的に取り組めるようにして欲しい。保護者会や学校便り等で、積極的に協力を求めるべきである。
			3 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 iPadを活用した家庭学習の実施率 70%以上						
			2 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 iPadを活用した家庭学習の実施率 60%以上						
			1 「生徒の学力定着・向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 iPadを活用した家庭学習の実施率 60%未満						
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取り組み	①支援が必要な生徒への指導方法等を研修する校内研修会を年7回実施する。	4 「校内研修会が自身の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答100%	3	4 インクルーシブな授業の実施率 80%以上	3	外部講師を招聘するなど、内容が充実した校内研修会を画通り実施できた。	教室内に支援が必要な生徒数が増加傾向にあり、個別の指導計画を綿密に立てる必要がある。	B	A	・テーマに沿った研修を1年間行い、その研修の成果を生徒指導に生かして欲しい。 ・墨田特別支援学校との生徒同士の交流ももっと深めると共に、教員の連携も深めながら指導方法のスキルアップを図ってほしい。
			3 「校内研修会が自身の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 インクルーシブな授業の実施率 70%以上						
			2 「校内研修会が自身の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 インクルーシブな授業の実施率 60%以上						
			1 「校内研修会が自身の授業力の向上に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 インクルーシブな授業の実施率 60%未満						
		②特別支援コーディネーターを中心とした教育相談部会を週1回実施する。	4 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答100%	2	4 不登校生徒の解消率 80%以上	2	教育相談部会は計画的に開催し、生徒の情報共有はできた。SSRの活用で、不登校生徒の居場所づくりはできた。	新たな不登校生徒を発生させない為にも、日常の学校生活をより楽しく、充実したものにしていける必要がある。	B	A	寺島中では不登校生徒が増加してきて少し心配をした。現在実施している対処法をより充実させ、一人でも改善するよう家庭や関係諸機関と連携して、その改善に努めて欲しい。
			3 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答80%以上		3 不登校生徒の解消率 70%以上						
			2 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答60%以上		2 不登校生徒の解消率 60%以上						
			1 「不登校生徒の改善に繋がった」等の肯定的な回答60%未満		1 不登校生徒の解消率 60%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
		③道徳の授業を中心に、生命尊重と人権尊重の精神等を涵養する授業を実施する。	4	「いじめのない学校」等の肯定的な回答100%	4	生命尊重と人権尊重の授業の実施率 80%以上	指導者のローテーションを計画的に行い、担任以外の教員からも道徳を学ぶ機会を設け、生命尊重と人権尊重の精神等を涵養する授業を実施した。	健全な人間関係を保っていく上でも、思いやりの心など、心を育てる教育を継続して実施していく。	A	A	重篤ないじめ問題に発展している事例はないが、今後未然防止、早期発見、早期解決に努めて欲しい。		
		3	「いじめのない学校」等の肯定的な回答80%以上	3	生命尊重と人権尊重の授業の実施率 70%以上								
		2	「いじめのない学校」等の肯定的な回答60%以上	2	生命尊重と人権尊重の授業の実施率 60%以上								
		1	「いじめのない学校」等の肯定的な回答60%未満	1	生命尊重と人権尊重の授業の実施率 60%未満								
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。	①学校支援部会として、主幹会や企画調整会議を週1回実施する。	4	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答100%	4	学校関係者評価 A	4	学校支援部会として、主幹会や企画調整会議を計画的に実施し、起案事項や学校の現況等、共通理解を図ることができた。	主任教諭としての使命や責任感が薄い教員がいるので、積極的に役職を与え、学校運営への参画意識の向上を図っていく必要がある。	A	A	・子どもを主とした学校経営を望む。 教職員の働き方改革を推進し、教職員が生き生きと働くことができる環境を整えて欲しい。 ・学級減に伴う教員数の減少があるが、生徒数の減少の原因を究明し、また減少に伴う学校運営組織の見直しを望む。	
			3	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答80%以上	3	学校関係者評価 B							
			2	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%以上	2	学校関係者評価 C							
			1	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%未満	1								
				②主幹・主任が中心となって運営され、報告・連絡・相談を徹底する。	4	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答100%	4	学校関係者評価 A	3	3人の主幹教諭を中心とし、教務・生活・進路の分掌や学年経営が円滑に進んだ。報告・連絡・相談を徹底するまでにはいかなかった。	B	A	・職員の雰囲気は悪くなく、そのことが、生徒の安心・安全な学校生活にも繋がっていると考えられる。 ・寺中の教員は皆一生懸命に働いている。個々の教員の力が十二分に発揮されることを期待する。
					3	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答80%以上	3	学校関係者評価 B					
					2	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%以上	2	学校関係者評価 C					
					1	「円滑に教育活動が進められた」等の肯定的な回答60%未満	1						
				③授業評価、学校評価等を、年度末に実施する。	4	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答100%	4	学校関係者評価 A	4	授業評価、学校評価等を、年度末に実施した。	A	A	・よりよい伝統を引き継ぎ、健全な子どもたちの育成の為、より良い環境の元で、より充実した学校教育を望む。 ・授業アンケートを継続し、授業改善に努めて欲しい。
					3	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答80%以上	3	学校関係者評価 B					
					2	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答60%以上	2	学校関係者評価 C					
					1	「教育目標が達成された」等の肯定的な回答60%未満	1						
家庭・地域連携	地域、保護者から信頼される学校運営等を行う。	①学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等を最低月1回は発行する。	4	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答100%	4	学校評価の肯定率 80%以上	4	学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等を毎月発行し、学校からの情報を伝えた。	A	A	・学校便りやホームページで生徒の活躍を具体的に紹介するなど、積極的に学校の情報や生徒の活動を発信してほしい。		
			3	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答80%以上	3	学校評価の肯定率 70%以上							
			2	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答60%以上	2	学校評価の肯定率 60%以上							
			1	「学校からの情報が発信された」等の肯定的な回答60%未満	1	学校評価の肯定率 60%未満							
				②PTAや学校運営連絡協議会、寺中地区青少年育成委員会と連携する。	4	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答100%	4	学校関係者評価 A	4	PTAや学校運営連絡協議会、寺中地区青少年育成委員会と連携しながら、学校運営を進めた。	A	A	・学校運営連絡協議会のメンバー等の地域人材、地場産業を積極的に活用し、子どもたちの健全育成につなげて欲しい。 ・同窓会でも、寺中生の育成に貢献したい。
					3	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答80%以上	3	学校関係者評価 B					
					2	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答60%以上	2	学校関係者評価 C					
					1	「信頼できる学校である」等の肯定的な回答60%未満	1						
				③連続性のある連携として、幼保小中一貫教育を実施する。	4	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答100%	4	学校評価の肯定率 80%以上	4	幼保小中一貫教育を3回、計画通りに実施した。	A	A	・小学校での取組で、中学校で生かせるものを考え、取り入れていってほしい。 ・今後、日本橋高校との連携で可能なものを考え、実現させていきたい。
					3	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答80%以上	3	学校評価の肯定率 70%以上					
					2	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答60%以上	2	学校評価の肯定率 60%以上					
					1	「学校生活が安定している」等の肯定的な回答60%未満	1	学校評価の肯定率 60%未満					

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

東京都教育委員会の目標、墨田区教育委員会の教育目標を受け、「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた子供の育成を目指し、「深く考え自ら学ぶ生徒」「心豊かで思いやりのある生徒」「健やかでたくましい生徒」の3つの教育目標の達成に向け教育活動を進めてきた。本校の教育活動は、学校の教育目標を達成し、「明るく元気で逞しく」、「ダイヤモンドの輝きを放つ寺中生」を育成することをねらいとしている。今後も、生徒が知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願い、よりよい教育活動を展開していく。

学校の教育目標の達成を図るためには、教職員一人一人がそれぞれの職務を遂行し、互いに認め合い、高め合い、そして明るく元気な全教職員で全生徒を見守りながら教育活動に寄与していく必要がある。またPTAや青少年育成委員会、町会や地域の方々等、本校を支えてくれ応援していただいている関係各位がそれぞれ「TEAM」としての活動をし、それらの力を結集し「学校」、「家庭」、「地域」、「関係諸機関」が連携することも要する。

今後の学力調査において、更なる向上を目指すためにも、引き続きICT機器をより有効活用し、授業や家庭学習を更に充実させていく。生活指導面でも、いつも生徒が安心して生活できる学校であるために、継続した指導と、道徳教育等を中心とした心の教育をより充実させ、その徹底を図る。学校行事も伝統を大切にしながらも新しいスタイルでの実施を検討し、リーダーの育成と共に、生徒一人一人が活躍できる場を設定していく。

教材・教具を含め、生徒が意欲的に学習に取り組むことができる教育環境を整え、「学力の向上」、「体力の向上」、「心の教育」を進め、生徒が期待感を胸一杯に膨らませながら登校し、一日の学校生活が終わった後、生徒が満足感をたくさん得て下校することができる教育を推進する。そのことが「地域から信頼される学校」に繋がると考える。地域・保護者に、本校の教育活動の更なるご理解を得るために、連携をより一層深めると共に、情報の発信を充実させていく。